（様式２）

令和５年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和６年3月３１日

国際交流推進センター長　殿

事業責任者（申請者）
所　　属　理工学部（自然科学域理工学系）
職　　名　教　授
氏　　名　三島　伸雄

下記のとおり令和５年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	日タイ建築都市デザインワークショップ（環アジア国際セミナー）		
2.事業責任者 （申請者）	三島伸雄	3.所属・職名	理工学部・三島伸雄
4.開催期間	令和　6年　3 月　24 日　～　令和　6年　3 月　30 日		
5.申請区分	A）学術交流協定（大学名）　(B) 共同研究　C）一般		
6.参加者数 ※参加者名簿（別添） を添付	参加者数　46　名 内、外国人数　20　名、研究者数　21　名、 学部学生数　12　名、修士以上学生数　11　名		
7.招待講師	所　属　チェンマイ大学・建築学部 職　名　学部長補佐、助教（博士） 氏　名　Assist. Prof. Dr. Umpiga Shummadtayar 所　属　チェンマイ大学・建築学部 職　名　助教（博士） 氏　名　Assist. Prof. Dr. Kitika Chiranthanin		
8.支出額	金　額　250,000　円 【内訳】 謝金　円 旅費　円 消耗品費　円		

9.国際研究集会の内容（実施の様子について、2～３枚程度写真をご提供ください）

（相手国・地域：タイ・チェンマイ　　相手機関：チェンマイ大学　　）

本国際研究集会では、建築・都市デザインの観点から、歴史的都市景観の保全・再生・活用に向けた空間的提案型研究を行った。ショートレクチャーや現地視察を含む６泊７日の短期集中型ワークショップである。タイ・チェンマイ大学ならびに佐賀大学等の学生を含む若手研究者等が参加した。

対象物件は、佐賀県鹿島市・肥前浜宿（2005年に重要伝統的建造物群保存地区に選定）において、肥前浜駅から酒蔵通りのある重要伝統的建造物群保存地区に伸びる駅前通り沿いに立つ空き家で、桟瓦葺寄棟平入・木造真壁造２階建で、肥前浜駅が昭和5年に建設されたのち、駅前通りが酒蔵通りまで建造された昭和８年の頃に建てられた建物である。戦後になって自動車社会になった頃に、建物所有者が浜タクシーを営業し始めて、その頃に増改築されている。しかしながら、屋根、２階、１階の座敷とその回りなどの当時のものは残っており、昭和初期の頃に酒蔵が最盛期を迎えた当時の浜町を体現する生証人の一つとして歴史的価値を有する。

３月２４日は移動日で、チェンマイ大学と佐賀大学の参加者はスクールバスで肥前浜宿に入って、その日は交流を行なった。翌２５日から２９日までが調査・研究・提案・発表であった。２５日は、オープニングセレモニーとチームビルディング（３チーム）を行なった上で、駅前の環境、ならびに対象物件の調査を行なった。ラミ・デルベル助教が肥前浜宿のレクチャーと現地案内を行なった。それらの上で、ファーストインプレッションに関する議論を行い、２６日に中間発表を行なった。２７日からは本格的な改修・活用提案の議論や作業、建築・都市デザインの提案物の作成にチームごとで取り組んだ。特に、地域資源や周辺環境、住民ニーズ等を踏まえた上で、内装および周辺整備の空間提案を行った。作業は、鹿島市肥前浜宿の旧乗田家住宅、水頭別宅を作業場として対象地のデータ整理、提案コンセプト作成とその詳細化、最終提案物（パワーポイントや模型）の作成であった。

３月２８日には、鹿島プロジェクトの延長にある国際的取り組みとして、豊田一彦理事を本学代表者として、チェンマイ大学建築学部の鹿島市長訪問を実施した。チェンマイ大学としての今後の予定を伝えるとともに、チェンマイ市長の意向も踏まえて、今後の取り組みについて意見交換を行うことができた。

３月２９日の最終発表会は、TEAMSを用いて対面ならびにオンラインで実施した。学生たちは、地域住民も含めた聴講者に対して英語と日本語で発表・意見交換を行なった。地域住民からも多くの意見が出て、学生や研究者にとっても刺激的な時間を共有することができた。

３月３０日は、肥前浜駅をスクールバスで出発して祐徳神社を視察し、鹿島市民文化ホール（SAKURAS）を視察した。祐徳神社は、タイのドラマ撮影のロケ地であるが、桜が満開でチェンマイ大学の学生たちは非常に嬉しそうであった。その後、鹿島市民文化ホールを視察した。同ホールは、三島研究室で基本構想策定作業を行なった建物であり（鹿島市からの受託研究で実施）、その後、建築家古谷誠章氏（早稲田大学教授）が基本設計・実施設計を行なったものである。非常にレベルの高い設計がされた建物を表から裏まで視察することができ、建築を学ぶ学生たちにとって刺激的な時間を過ごす

ことができた。その後、福岡のホテルまで送迎した。



肥前浜宿の視察



作業場での議論の様子



最終発表会



お別れパーティでの集合写真

10.事業実施による成果・今後の事業の発展等

地域住民との間では、若手グループを中心に肥前浜宿の空き家改修に向けた NPO 組織化が動き始めている。その NPO とともに、今回の対象物件の改修に具体的かつモデル的に取り組むことが進み始めている。三島研究室で令和５年度に受託研究で取り組んだ「空き家予備軍データベース」の充実と活用も含めて、国土交通省がすでに概算要求している空き家再生補助事業に申請し、当該 NPO を中心とした事業化である。建物所有者は当該敷地の売却を希望しており、当該 NPO が購入して改修に取り組むことを予定している。その設計作業には、佐賀大学学生も参加して取り組む予定である。また、研究としても、「空き家予備軍データベース」を核に A-Step などの研究助成に応募し、本研究の発展に取り組む。

また、国際共同研究としては、チェンマイ大学建築学部が同大ビッグバンプロジェクトに応募して採択されたことを受け、以下のことを実施する予定である。さらに、チェンマイ大学側でもワークショップの開催を予定している。

① チェンマイ市・チェンマイ大学の鹿島市肥前浜宿およびガタリンピック調査団の派遣

日　程：２０２４年５月 29 日～6 月５日（決定）

目　的：チェンマイ市は鹿島市の住民参加を通した保存地区の導入に強い関心を持ち、　チェンマイ大学が同大学のビッグバンプロジェクトの一環として、鹿島市の自然・歴史をモデルケースとして国境を超えた市および大学同士の連携によるまちづくり協力を実現するための調査・視察

訪問先：佐賀大学、佐賀県庁、鹿島市等

来訪者：チェンマイ市（副書記官　外３名）

チェンマイ大学（計画質保証担当学長補佐　外３名）

② チェンマイ大学主催による①の調査結果に基づく展覧会

テーマ：「チェンマイ大学と佐賀大学の共同創造都市プロジェクトによる都市・大学協力体制の拡張：都市開発プラットフォーム」

日　程：２０２４年８月半ば～９月（予定）

目　的：チェンマイ大学と佐賀大学共同による都市・大学協力体制の構築。具体的には、チェンマイ市と鹿島市の国境を超えた協力体制構築。

場　所：チェンマイ大学

11. 実施者アンケート

本事業の満足度（5（非常に良い）～1（非常に悪い））：5

支援経費は適切であったか（5（非常に適切であった）～1（非常に適切でなかった））：5

次年度以降も本事業の実施を希望するか：希望する

そのほかコメント：成果を出していくためには事業の積み重ねが必要である。今回の事業は、単に地域の

課題解決による地域貢献を踏まえた国際交流にとどまらず、今後のチェンマイ市とチェンマイ大学、鹿島市と佐賀大学を交えた連携機関との関係強化並びに国を超えた関係機関の連携拡大に向けた意義深い成果を上げることができた。

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。

※写真は学内外へ発信する広報に活用するため、映っている方々からの使用許諾済みのものをお送りください。また、写真データ（jpg または png）の送付をお願いいたします。(Word 貼付けとは別に)